

農工商」を抽出し日本化した。

綱吉は、これをまねて儒者、医師、僧侶の地位を整理し、これらの身分即ち階級を明確にした。この際、林家を重視し、医師を儒者と僧侶の中間におくよう林家が強く將軍とその側近に働きかけたと考えざるをえない。

その集約が元禄四年四月の湯島聖堂の完成であった。しかし弘文院死後、林家は衰退の道をたどった。

(中西医院)

14 『紅夷流道具集解総図式』成立への
スケルテタス(Scultetus)の外科書(Arma-
mentarium chirurgicum)とパレ(Paré)外科全集(De
Chirurgie ende Opera van alle de Werken, Les
Oeuvres de Mr. Ambroise Paré)の影響

蒲原 宏

『紅夷外科宗伝』とその系列にある西洋外科書の初期模
写翻訳外科伝書の治療図及び手術器具の図がパレの外科
全集だけでなく、その四〇・二%がドイツのウルムの外
科医スクルテタス(Johannes Scultetus 一五九五—一六四五)
の著書『外科の兵器庫 Armamentarium chirurgicum』
に由来する事実を指摘し、すでに報告した。

類似の初期模写翻訳外科伝書として『紅夷流道具集解
総図式』と『阿蘭陀流外科道具書』という、書名は異な
るがほぼ同一の内容をもった系列の写本、卷子が存在し
ている。

その内容は西洋外科手術器具の模写図と簡単な説明が

附されている。

何れも模写年月日、筆録者名を欠き、正確な成立年代を知ることが出来ない。現在のところ『紅夷流道具集解総図式』は二部存在し、若林正治氏所蔵の一本は冊子で宗田一氏により一九七八年に発見され、全文が『図録日本医事文化史料集成』第三巻に収められており、「通詞系外科書であろう」と推定報告されている。

他の一卷は佐賀県諫早市菅原柳二氏所蔵で、一九九〇年『諫早医史』編纂に際し、永松親子氏により発掘され、酒井シツ氏により「通詞系外科書と考えられ、Heister外科書の影響があると考えられる」と推定報告されている。

同一内容の冊子本『阿蘭陀流外科道具書』は、故大矢全節氏の旧蔵本であり、すでに大矢氏の大著『世界泌尿器科学史』（皮膚泌尿器科学大系第一巻第一冊、一九三八年、南江堂刊）三六五頁に紹介されていたが、何れも由来原典については推測の域を出ていなかった。

これら写本に図示されている手術器具と『紅夷外科宗伝』系列の図巻、冊子に図説されている手術器具が全く同一のものが多く存在するので、パレ外科全集、スクール

テタス外科書原典記載の手術器具と比較検討を行った。

若林本は六八種一四六具、菅原家本は六九種一四七種であり、手術器具に一種一具の差があった。

『紅夷流道具集解総図式』若林本では一四六具のうち一二五具（八五・六％）がスクールテタス外科書から、一四具（九・六％）がパレ外科全集からの引用図であった。由来不明のものは七具（四・八％）に見られた。

菅原本では一四七具のうち一二四具（八四・四％）がスクールテタス外科書から引用筆写された手術器具であった。パレ外科全集からは一五具（一〇・二％）が引用模写されており、由来不明の手術器具およびその他の器具が八具（五・四％）に見られた。

キリストイル (Kistler) の腔灌注用はパレ外科全集から、もう一つの大きな直腸用はスクールテタス外科書からというように区別して引用模写されている。

膝関節支持矯正装具、肘関節支持治療装具、脊椎（柱）支持治療装具は全てスクールテタスの外科書からの引用である。現在のところ、原典の由来が不明のものは、ランセイタット、シケールメス、セシメス、ヘスガラス (Pistil) 、

セパレルメル、テイケンなどがあり、今後の調査を必要とする。

スクールテラス外科書の手術器具の図版からの引用模写数が八四・四%乃至八五・五%と圧倒的に高率であることは、スクールテラスの著作が、パレの著作よりも、図版が豊富で美しく、大きく描写されており、より理解し易かったためと考えられる。現在のところ、確かに存在した筈の江戸期に輸入されたスクールテラスの外科書 *Amamentarium chirurgicum* が日本国内に残存している証拠は発見できない。

スクールテラス外科書由来の手術器具にオランダ語の発音を片仮名で付しているところからみると、そのオランダ語版を直接見て模写する事のできた立場の人たち、即ち通詞外科系の誰れかが模写した作品である確率は高い。矯正器具の説明を原文と対比してみると、当時としては高度の語学力のある人が関わったと推定される。パレの外科の受容とともにドイツのスクールテラスの外科の受容が行われ、その後にはハイステルの外科が受容された。日本における西洋外科の受容の過程について考えなおさ

せる重要な資料である。『紅夷流道具集解総図式』の価値と意義と再認識すべきであり、これらの最初の原図は『紅夷外科宗伝』『金瘡跌撲療法之書』などの成った一八世紀前半期に成立していたのではなからうかと推定される。スクールテラスの外科書の方が国への輸入と受容についての関心を喚起するために敢てこの報告を行った。

(新潟大学)